

平成20年11月28日

瑞浪超深地層研究所の施設活用について

超深地層研究所跡利用
検討委員会事務局

昨年度に実施された第7回の超深地層研究所跡利用検討委員会(平成19年10月11日)において、地上施設における体験学習の場としての施設活用の状況と深度200mの研究坑道の活用方策等をご報告させていただきました。

今回は、本委員会以降の研究坑道の活用方策の実施状況と瑞浪超深地層研究所における体験学習への取り組みについて紹介させていただきます。

1. 研究坑道の活用方策の実施状況

現場での研究成果パネルの展示

深度200mの予備ステージ、ボーリング横坑(主立坑側及び換気立坑側)では、地下水の水圧や水質の観測及びひずみ計測の観測を行っています。

これらの研究成果を説明するパネルを現地に設置し、施設見学会等で広く紹介をしています。



深度200m 予備ステージのパネル展示

深度200mのボーリング横坑(主立坑側)の活用方策

主立坑側のボーリング横坑では地層の露出部分を設け、実際の地層を見ていただくことができるように整備しました。

また、壁面には地層を見ながら直接触れることができる地層観測窓を設置しました。



地層の露出部分

2. 今後の進め方

深度300mに掘削する水平坑道についても、実際の地下の環境や研究現場の体験などができるように準備を進めていきます。

(参考)瑞浪超深地層研究所における体験学習への取り組み

瑞浪超深地層研究所では、平成19年度から平成20年度にかけて、研究施設を利用した以下の取組みを行ってきました。

(1) 高校生を対象とした先端科学体験

高校生のための先端科学体験合宿プログラム「サイエンスキャンプ」を平成20年3月及び同8月に開催しました。「感じてみよう!!地球のすがた～地下の世界を探る～」と題したテーマのもと、日本全国から高校生が参加して地層や地震・火山などの地球科学について学びました。

また、文部科学省が進める科学技術、理科・数学教育を重点的に行う学校「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」に指定された高校の研究所見学の受け入れも行いました。



サイエンスキャンプの様子



SSHの研究所見学の様子

(2) 学校教育への協力

機構職員が講師となり、多治見市立多治見中学校の3年生を対象に、エネルギー環境学習に関する授業を行いました。



多治見中学校での講義の様子

(3) 小学生による掘削現場の取材への協力

中日新聞が企画することも記者(小学生)が研究所を訪れ、深度100mにおいて地下の世界を取材しました。

(4) 施設見学会の開催

瑞浪超深地層研究所では、一般の方々を対象とした見学を毎月1回(第4日曜日)開催してきました。平成19年10月から平成20年10月までに、約340名の方々にご見学をいただきました。



施設見学会の様子

(5) 各イベントへの協力

サイエンスワールド主催の「サイエンスフェア」、中部経済産業局及び瑞浪市主催の「おもしろ科学館 2008in みずなみ」等、各イベントへの協力を行いました。「おもしろ科学館 2008in みずなみ」では、断層実験教室や地層・断層ツアー、研究所見学ツアーを開催いたしました。



おもしろ科学館の研究所見学ツアーの様子



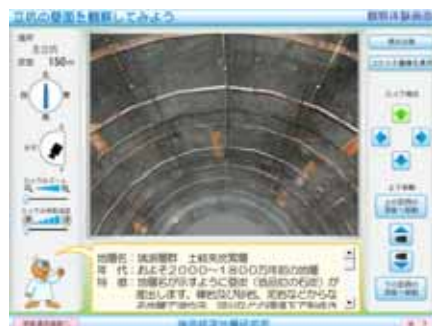
サイエンスフェアの断層実験教室の様子

(6) ホームページを用いた情報発信

研究坑道掘削における地層の壁面写真やスケッチの情報を用いて、パソコン上で連続的に観察することができるシステムを構築し、東濃地科学センターのホームページからご覧いただけるようにしました。現在は、主立坑(深度170mまで)、換気立坑(深度190mまで)、深度100m予備ステージをご観いただくことができます。



壁面画像(深度100m予備ステージ)



壁面画像(主立坑:深度150m)

以上